



通勤・通学に人気のクロスバイク



フラッグシップロード「Madone」

都心と成田空港を結ぶ北総線の主要駅、印西牧の原駅周辺は1990年以降、ニュータウン開発により人口が急増したエリア。その駅前大型商業施設「印西牧の原モア」の一角にあるのが、「トレックのコンセプトストア「タキサイクル」だ。幅広い層が集まる大型商業施設内では一般車、電動アシスト自転車、ジュニア車を中心とした総合的なラインナップの自転車店がスタンダードだが、中務博司店長によれば「佐倉市の本店とは別に開業した店舗だが、現在は同店に絞って運営している。周辺には印旛沼や手賀沼等にサイクリングロードが整備されスポーツバイクのニーズはあるし、本店もスポーツバイク専門だったのでノウハウもある。駐車場も十分な数があり交通の利便性も良い。さらに人が多いエリアということで、大型チェーン店や自転車販売している量販店が周辺に多い」というのが、専門店を展開するに至った流れ。単なるこだわりではなく、ビジネスプランの上でそうだったのだ。取材に訪れたのは平日の午前中だったが、

駐車場はほぼ満杯だったことで人気の施設だということも理解できた。トレックは通勤・通学用のクロスバイク、ジュニア車と、ボリュームゾーンに想定されるラインナップが充実しているブランドだけに、確かにポテンシャルは大いにありそうだ。

勿論ロードのミドル、ハイエンドモデルにも注力しており「朝の練習会」という定期イベントを本店で30年以上実施する等、ユーザーの囲い込みもできている。SBAA PLUSも、発足後すぐに着目し、第一回取得講習会で認定を受けた。「自転車技士の資格を持つことは当然として、さらにスポーツバイク専門でやっていく上で、自称ではなく、確かな技術がある公の証が必要だと考えた」というのがその理由。そして「講習会ではカーボン技術のこと等、知らなかったことをたくさん教えてくれて面白かった。他店のオーナー等、多くの人と人との繋がりができたのも有難かった。受けて本当に良かったと思った」。お客様とのコミュニケーションの中で間違った認識を「それは違いますよ」と正すことができているのも、SBAA PLUSでの勉強のおかげだと高く評価している。

オフロードバイク普及に向けた課題解決の可能性

トレックは黎明期からEバイクを展開しているブランドにつき、プラッ

Eバイクの中で最も可能性があると言われている。さらにもう1つ昨今の自転車事情で憂いているのが、コロナ禍が収束し全国で新しいスポーツバイクイベントがどんどん発足している一方で、歴史がありながらもメーカーの協賛撤退等の影響で衰退しているイベントが多いことだ。

オフロードバイクの普及促進及び、BtoCサイクルイベントの支援に昨今特に力を入れている自転車協会。2つの問題は個人の思いだけではどうにもならないが、自転車協会とSBAA PLUSの認定者たちが同じ方向性を向いていれば、解決へと向かう道がいつか開けるのではないかと中務店長は期待を寄せる。

- ▽住所：千葉県印西市牧の原1-1-3
- ▽TEL：0476-1361844
- ▽営業時間：平日11:00～19:00 / 平日以外10:00～18:00
- ▽定休日：毎週火曜日・水曜日
- ▽約90坪の店舗内には約50台のトレックバイクが、ブランドの世界観が感じられるようスタイリッシュに展示。ラインナップはハイエンドからミドル、エントリーのロードバイク、通勤・通学で人気のクロスバイクが中心。「印西牧の原モア」の客層にマッチするジュニア車も多数ラインナップ。パーツ、アクセサリ、サイクルアパレルは複数のブランドを取り扱い、こちらも魅力的なラインナップとなっている。

一般社団法人 **自転車協会**

“自称”ではない、公が認めるス

(一社)自転車協会が展開するスポーツバイクを取り扱うスタッフの認定資格「SBAA PLUS」。全国922名のSBAA PLUS認定者は果たして、そこにどんな価値を見出し、ユーザーの安全・安心にどう役立っているのか。今回は千葉県印西市にある「タキサイクル」の店長、中務博司さんに話を伺った。

スポーツバイクのスペシャリスト



SBAA PLUS認定証



終日地元客で賑わう「印西牧の原モア」内の店舗



タキサイクル中務博司店長